



URL <http://e-jousenji.com/>

## 浄泉寺寺報

発行日 平成27年1月20日  
 発行者 浄泉寺住職 赤羽根 證信  
 住 所 大崎市岩出山字浦小路113  
 電 話 0229-72-1168

## 無 事 感 謝

浄泉寺 成願寺 住職 赤羽根 證 信

ご門徒の皆様、新年あけましておめでとうございます。

本年は寺報「俱会一処」をお届けして20年になります。昨年末、年賀状をしたためるにあたり、昭和34年10月住職を拝命して55年、人生、喜寿（77歳）の節目を振り返りながら、あらためて、つながりを生かさかされている身として「無事感謝」と書かせていただきました。何卒本年も宜しくお願い申し上げます。

宗祖親鸞聖人750回ご遠忌記念事業である本山（京都東本願寺）ではご影堂、阿弥陀堂、山門のご修復工事が全国のご門徒皆様のご協力により立派にその成果が果たされております。

一方教化の面では各種研修や講習会などが充実され同朋会館での活動が盛んに行われております。私達も上山してその場に参加した

いと思っております。その行事のひとつに帰敬式（おかみそり）があります。これまでは本山のみで行われておりましたが、いわゆる念仏者としての誕生式が私達一般の寺でも可能となりました。しかし、私共浄泉寺での帰敬式実施は困難ではないかと考えておりましたが、ご門徒の方からの強い要望があり、責役総代会、護寺会、そして一昨年組織された同朋の会からのアドバースをいただき、昨年5月18日初めての事業として「浄泉寺春の法要」を開き、そのスケジュールの中で帰敬式を実施させていただきました。

以前にも紹介しましたが、帰敬式は仏教の創始者である釈尊の仏弟子として法名を受け念仏者としての誕生、あらたな人生の出発をされる儀式であります。また、春の法要は釈尊の誕生（4月8日）

宗祖親鸞聖人の誕生（4月1日）にご縁をいただき、秋の宗祖のご命日をよりどころとして行なわれている報恩講、夏のお盆の万灯篋会、新年明けの修正会などの諸事業等とともに定着させて参りたいと考えております。

昨春秋、庫裡、台所、トイレを改造して洋式の部屋40畳ほどの研修室として多目的に使用できる様に致しました。台所はこれまでより広く報恩講やその他の研修の食事作業に応じられるスペースを確保し、各種行事の度に問題だったトイレも全面改造致しました。

今回のリフォームは、先ずトイレの改造が一番の目的でしたが、工事の全てが素晴らしい出来栄えとして完成を喜んでおります。今後はこれらの施設をフルに使い、本来の寺の使命であります御同朋御同行のいのちのよりどころとした「聞法の道場」にして行こうと願っております。いささか老い的身ではありますが宜しく願い申し上げます。

合 掌

# 教行信証

責任役員 赤間 栄夫

常陸時代の親鸞にとって、最も重要な仕事は「教行信証」の制作でした。「教行信証」は正式には「顕浄土真実教行証文類」といい本願念仏、絶対他力の境地を経文に即して明らかにしたもので、この「教行信証」の制作をもって浄土真宗の立教開宗とみなすのです。

現在では「教行信証」は元仁元年（一二二四年）に完成したという説が一般的です。これは「教行信証」の化身土巻に末法年代計算の基準として元仁元年の年紀が用いられるのが根拠になっているのですが「教行信証」自体、親鸞は晩年に至るまで加筆修正をしており、必ずしも関東に住していた時代にすべて完成したのではないともいえませんが、少なくともその骨格は稲田の地で出来上がっていたと考えることは間違っていないと思います。

そのような意味で、常陸国は浄土真宗発祥の地であるといつてよいと思います。「教行信証」は、法然の「選択本願念仏集」を補足する意味があるといわれます。

## ▼選択本願念仏集

選択本願念仏集には、正統派の仏教者から多くの批判が投げかけられました。特に梅尾の明恵は、法然没後「選択本願念仏集」を読んで、それに対する厳しい批判の書である「摧邪輪」を著わしました。その中で明恵は、法然が大乗仏教徒にとって一番大事な菩提心の必要性を認めていないこと、念仏以外の教えを誹謗中傷しているとして厳しく批判したのでした。

このような非難に対し、念仏こそが真実の菩提心の発露であって一切の徳をその中に修めるものであることを明らかにしようとしたのが親鸞の「教行信証」だったの

です。そのような意味で「教行信証」は「選択本願念仏集」に対する批判に答え、それを補遺することによって念仏の意義を明らかにしようという意味で書かれたものでした。

親鸞は「たとえ法然上人にすかされまいらせて（たまされて）念仏して地獄におちたりとも、さらに後悔すべからず候ふ」というように法然に絶対的に帰依してしましたので、法然から独立して自分が一宗一派を開くつもりなど毛頭なかったに違いありません。

ただ、主観的には仮にそうであっても、客観的な状況から見ても「教行信証」は「選択本願念仏集」を補遺するためというにはあまりにも浩瀚かつ完成された書物であつて、特に内容的にも「選択本願念仏集」を絶対他力の信心という点においてはるかに超えて徹底したものですから、自ら親鸞を法然から区分して、独立せしめることになつた所以ではないでしょうか。親鸞を後継する者が、法然の浄土宗から独立分離して浄土真宗とい

うように別立てしたのも領けるところです。

## ▼親鸞教団

親鸞が稲田にて「教行信証」を一応完成したということによって意識するとしなやかかわらず文字通り法然教団から思想的に独立した親鸞教団というものの成立を果たしたといつてもよいでしょう。後世において、この「教行信証」の成立をもって浄土真宗の立教開宗の起点としているのも、このような理由からです。

## ▼鹿島神社

親鸞はこの「教行信証」の執筆にあたって鹿島神宮所蔵の大蔵經（一切経を参照したといわれています。しかし、現在の鹿島神社には、一切経を収納したといわれる経蔵あとが残っているだけです。

宮司によりますと、後の一切経は笠間稻荷神社の方に移され、今日に至っているとのことでした。

親鸞が参照した一切経は、恐らく「唐本一切経」であつたと思われるます。（「親鸞に学ぶ」より）

# 発 菩 提 心

浄泉寺 副住職 赤羽根 聡

正法の時機と思えども

底下の凡愚となれる身は

清浄真実のころなし

発菩提心いかがせん

(正像末和讃)

あけましておめでとうござい  
ます。平成27年が始まりました。こ  
の年末年始は家族と過ごす時間が  
多く、あらためて家族の有難さを  
感じた次第です。

顧みますと、昨年末にかけて経  
済を最優先する一方で集団的自衛  
権の問題や原発再稼働の問題が、  
知らず知らずのうちに一部の「有  
識者」によって決定され、「国民不  
在」の社会が一層進んでしまった  
ことが気にかかります。一人ひと  
りの意見がなかなか聞き入れられ  
ず、ついには口をつぐんでしまつ。  
民主主義の根幹が根底から崩され  
てしまいそうな昨今であり、その  
ことを身をもって経験することも  
ありました。しかしながら、知慧

浅はかな身ゆえ声を出そうにも出  
せない。その身を何とか奮い立た  
せる機を探さなければならぬ、  
今そういう気持ちでおります。

一人ひとりの声が無碍の光につ  
つまれながら、教えとして育まれ  
ていくような世の中になることを  
願っています。そして、もの言わ  
ぬ社会からもの言える社会へ。私  
もその一步を踏み出せるような多  
くの教えをいただきたいものだな  
と思います。

本年もどうか宜しくお願い致し  
ます。

合 掌



## 別院報恩講参詣

恒例の「東北別院報恩講参詣と  
三陸大船渡への旅」が10月16日、  
浄泉寺及び成願寺門徒25名の参加  
のもとに開催されました。

午前7時浄泉寺を出発。古川の  
成願寺門徒と合流し東北別院に向  
かい9時には別院に到着し、会場  
入りが早かったため本堂左側のい  
す席に着席して開式を待ちまし  
た。当日の別院の行事は例年通り  
「2日目日中」。今年は参詣者も増  
え、震災以前とまでは言えないま  
でも本堂はほぼ一杯の人で埋め尽  
くされ盛大に開催されました。

式は午前10時に開始「正信偈草  
四句目下」「和讃」等を参加者全員  
で唱和しましたが、今年は少し違  
う節回しのものがあつて戸惑つて  
しまう部分がありました。皆さ  
んなんとか切り抜けられたようで  
した。続いて11時から講演があ  
り、講師中川皓三郎師（前帯広短  
期大学学長）による講話（講題Ⅱ  
人間であることの課題）を聴講さ

せていただきました。

また、今年も昨年に続き東日本  
大震災の被害者救援のためのチャ  
リティーバザーを開催中で、それ  
に協力されている参詣者の姿も多  
く見られ、別院の震災復興への思  
いに胸が打たれました。

参詣後はその場で昼食をいただ  
き大船渡市に向け出発。今日の第  
一の目的地の長安寺には午後4時  
に到着し、ご住職のお話を伺うこ  
とが出来ました。40分ほどのご説  
明などをいただき長安寺を後にし  
た一行は、午後6時頃には今宵の  
宿「やすらぎの宿廣洋館」に到着、  
一風呂浴びてすぐ懇親会が行なわ  
れ、歌や踊りと楽しいひと時を過  
ごしお互いの懇親を深めました。  
2日目の17日は、運転手さんと  
の連携が上手くゆかず浄土ヶ浜観  
光船の出発時刻に間に合わず、急  
ぎよ予定を変更し先に昼食をとり  
1時の便に乗船し浄土ヶ浜の海か  
らの景観を楽しませていただきました。  
その後宮古市でのお買い物を  
楽しんで無事帰還しました。



## 平成26年 報恩講実施報告

11月23日浄泉寺恒例の報恩講が厳修されました。真宗寺院にとつては一年で最も重要な仏事で、親鸞聖人のご命日のある11月に全国的に実施されております。

当日は幸いにも好天に恵まれ、午前9時30分副住職の調声によるみんなでおつとめ、正信偈同朋奉讃式を唱和、10時から組内寺院ご住職14名もの助音により正信偈真四句目下、念仏、和讃の後、ご法話をいただきました。

法話は、東北別院輪番・清谷真澄師によるもので、師は、30年ほど前に浄泉寺で親鸞教室を開催した折、10年間の長きにわたり講師としてお世話になった清谷和男師のご子息です。清谷父子二代にわたるご縁に対し、当時を知る者として深いご縁を感じたものでした。

また報恩講には、例年通り成願寺・鬼首の方々にも団体参拝を賜り、護寺会役員・担当番講一同心より感謝申し上げます。

## 同朋の会に思いを寄せて



浄泉寺同朋の会が発足して一年余り、毎月20日寺に集まり、主に仏事のことを中心に、活発にそして和気あいあいとした雰囲気の中での話し合いは、時を忘れることもありました。

5月に行われた総会では、「寺の行事に積極的に参加して、真宗の教えを学んで行こう」と決議されました。

寺は仲間（御同朋・心の友）を知る場であり、仏法の声を聴く（聞法）場であり、自分を探す場であります。今年の仏法カレンダー8月のメッセージに「今を生きずについて生きる、ここを生きずにどこを生きる」とあります。宗祖親鸞聖人は「一人で生きるときは二人

と思え、その一人は親鸞なり」と寄り添っています。

これからの同朋の会の活動を大いに期待致します。

南無阿弥陀仏

住職

## お誘い

第9回成願寺門徒会研修会が2月8・9日（日・月）1泊で鳴子観光ホテルにて開催されますので浄泉寺同朋の会の皆さんにもご参加いただければ幸いです。

参加費・15000円

詳細は住職まで ☎(72)1168

## 年回表（平成二十七年）

|       |                  |
|-------|------------------|
| 一周忌   | 平成二十六年           |
| 三回忌   | 平成二十五年           |
| 七回忌   | 平成二十一年           |
| 十三回忌  | 平成十五年            |
| 十七回忌  | 平成十一年            |
| 二十三回忌 | 平成五年             |
| 二十七回忌 | 昭和六十四年<br>（平成元年） |
| 三十三回忌 | 昭和五十八年           |
| 三十七回忌 | 昭和五十四年           |
| 五十回忌  | 昭和四十一年           |
| 百回忌   | 大正六年             |

## あとがき

平成8年創刊した「浄泉寺寺報」が今回で20号（護寺会会報同じ）になる。ご住職が基金を用意されて始めたもので、本堂建設という大事業を終えて間もない頃、しかも本堂建設の記念誌を発行したばかりで事後処理が完結してもない時期である▼今、第1号から読み直してみると、本山・別院での研修、報恩講、各種の行事案内・報告等が内容の基軸になっているが、毎号掲載の「親鸞の教えに学ぶ」をはじめ、「蓮如上人500回ご遠忌」「宗祖親鸞聖人750回ご遠忌」等、その時々々の行事や事業紹介もある▼中でも「同朋の会」に関する考えや組織作りを目指す記事も随所に見受けられ、この教化活動が実を結び現在の同朋の会があるのだと思うと感慨ひとしおである▼本堂建設以来次々に打ち出され実行された新事業。「目標を定め、種をまき育て上げる…」続けようこの努力。（編集委員）